

計画策定の前提条件

めざす将来都市像

社会潮流

- ◆人口減少・少子高齢社会
- ◆生活様式の変化・多様化
- ◆安全・安心への関心の高まり
- ◆地球環境の保全
- ◆情報社会の進展
- ◆協働の必要性

野洲市の特性

- ◆水と緑の豊かな自然
- ◆豊富な歴史・文化遺産
- ◆高い交通利便性
- ◆ICT産業をはじめとする製造業の立地
- ◆堅調な人口推移

市民の意見

- ◆野洲市の自然や文化・歴史・伝統に誇り・愛着を感じている。
- ◆多くの市民が今後も住み続けたいと思っている。
- ◆理想とする将来のまちの姿(多数意見)
 - 災害に強く、犯罪の少ない安全・安心なまち
 - 安心して子どもを産み育てることのできるまち
- ◆今後重要な施策(多数意見)
 - バランスのとれた財政運営
 - 充実した学校教育施策

野洲市の課題

- ◆子育て・教育・人権
 - 地域全体で子育てを支える環境づくり
 - 世代間・地域間での学びの好循環の形成
 - 様々な背景を持つ人がともに生きる地域社会づくり
- ◆福祉・生活
 - すべての人が地域の中で役割を担い支え合う共生社会の実現
 - 地域全体で切れ目なく必要な医療が提供される体制の整備
- ◆産業・観光・歴史文化
 - 地域特性や市民ニーズを踏まえた商工業の振興
 - 持続可能な農林水産業経営の実現
 - 地域資源を有効活用した観光の振興
- ◆環境・都市計画・都市基盤整備
 - 自然環境の保全と低炭素社会の形成
 - ハード・ソフト両面での災害に強いまちづくり
 - 「多極ネットワーク型コンパクトシティ」の実現
- ◆市民活動・行財政運営
 - 協働の仕組みの充実
 - AIやICTの活用による計画的で効率的な行政運営

笑顔あふれる
にじいろ都市
やす

多様な人々と多彩な自然が調和した、
個性輝くにじいろのまち

資料7 抜粋_第2次野洲市総合計画

基本姿勢

協働のまちづくり

市民を中心として、行政や事業者、自治会等各主体とまちづくりの目標を共有しながら、お互いを尊重し、信頼し、協力し合う「協働」によるまちづくりを進めます。

SDGsの実現

将来にわたって持続可能なまちを築いていくという横断的な視点のもと、総合計画の各分野において、SDGsとのつながりを意識しながらまちづくりを進めます。

分野ごとの基本方針

1 子育て・教育・人権

- ◆親が安心して子育てし、子どもが健全に育つまち
- ◆誰もが生涯にわたって学び続け、学びの好循環が生まれるまち
- ◆互いを尊重し合い、多様性を認め合いながら、ともに生きるまち

- 1) 子育て支援の充実
- 2) 青少年の健全育成
- 3) 学校教育の充実
- 4) 生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進
- 5) 人権の尊重と多文化共生社会の実現

2 福祉・生活

- ◆誰もが生きがいづくりや健康増進に取り組み、地域全体で切れ目なく医療が提供されるまち
- ◆「地域共生社会」の実現に向け、互いに支え合い、ともに安心して生活できるまち
- ◆生活上の諸課題を抱える人が安心して暮らせるまち

- 1) 健康づくりの推進と地域医療体制の整備
- 2) 高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり
- 3) 障がい児・者福祉の充実
- 4) 地域福祉の推進
- 5) 生活困窮者等への支援の充実
- 6) 消費者行政・防犯対策の充実

3 産業・観光・歴史文化

- ◆地域経済が活性化し、市民生活が充実したまち
- ◆豊かな地域資源を生かし、多くの人が訪れ楽しめるまち
- ◆交流や連携を通じて多様な人々の関わりが生まれるまち

- 1) 商工業の振興
- 2) 農林水産業の振興
- 3) 地域資源を生かした観光の振興
- 4) 歴史文化遺産の保全・活用

4 環境・都市計画・都市基盤整備

- ◆豊かな自然環境が守られるまち
- ◆必要な都市機能が確保され、ネットワークで結ばれるまち
- ◆快適な環境が確保された、安全・安心なまち
- ◆ハード・ソフト両面で災害に強いまち

- 1) 均衡ある土地利用の推進
- 2) 自然環境・美しい景観の保全
- 3) 生活環境の保全と上下水道サービスの安定供給
- 4) 防災・減災対策の強化
- 5) 道路ネットワークの整備と交通安全の推進
- 6) 公共交通の利便性の向上

5 市民活動・行財政運営

- ◆市民と行政の協働による暮らしやすいまち
- ◆透明性が高く、効果的・効率的に運営されるまち

- 1) 市民活動・自治会活動の推進
- 2) 市民との情報共有の推進
- 3) 効果的・効率的な行財政運営

住んでよかったまち

住んでみたいまち

住み続けたいまち

はじめに

基本構想

基本計画

総合戦略

資料編

施策

3

地域資源を生かした観光の振興

▶めざす姿

野洲市の地域資源の魅力が市内外に周知され、多くの人が野洲市を楽しみ、地域経済が活性化しています。

▶現状・課題

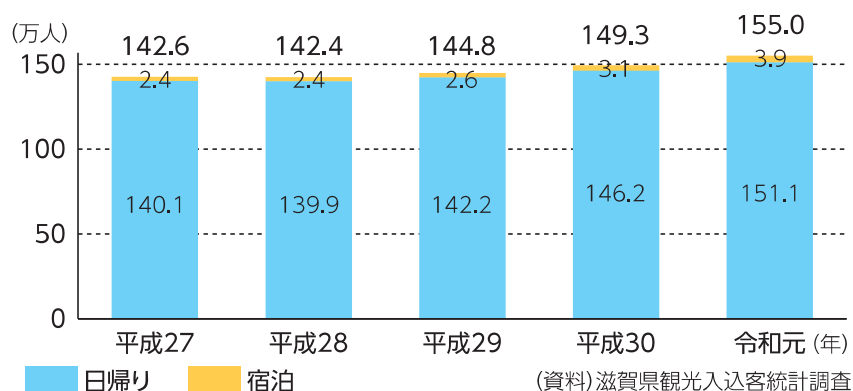
野洲市には、三上山や琵琶湖に代表される豊かな自然や歴史、社寺や史跡等の魅力ある地域資源があるものの、それぞれが点在しており、結び付けるような観光の仕組みづくりやまちの玄関口である駅からの交通手段が十分でなく、地域資源を生かした観光が展開できていません。また、地域の歴史や伝統文化等は市民においても認知度が低く、野洲市の良さや魅力が市外に広がらない一因にもなっています。

観光には、その地域ならではの体験や学び、地域との交流等、新たな価値が求められる時代となっています。野洲市の自然や文化は、市民にとって身近で日常的なものであっても、市外の人々に魅力的で非日常的な体験をもたらす可能性を秘めています。まずは、市民が野洲市の魅力を再発見するとともに、事業者や市民団体等が連携しながら、エコツーリズム*、アグリツーリズム*等ニーズに応じた観光のあり方を模索し、新たな観光資源の掘り起こしを進める必要があります。

また、インターネットの活用やターゲットを明確にした魅力のアピール等、市外の方が野洲市の文化、歴史、生活に関心を持ち、実際に訪れるような情報発信の工夫が必要です。

野洲市の魅力が市内外の多くの人に注目され、野洲市に関わりを持つ関係人口*が増加することで、事業者や市民団体等にも新たな工夫やアイデアが生まれ、地域ブランドの創出や地域への誇りや愛着の醸成にもつながります。地域経済の活性化とともに、地域の魅力を守り発展させていく担い手の輪が広がるよう、商業や農林水産業等他分野とも連携を図りながら、観光振興を進める必要があります。

観光入込客数の推移





▶ 取組方針と主な取組

取組方針	主な取組
①観光情報の収集・発信の充実 観光情報を効果的に発信する仕組みを時代やニーズに応じて構築し、野洲市ならではの体験や学びなど、野洲市の魅力をアピールします。	インターネットやSNS [*] 等社会に対応した観光情報の発信
②新たな観光資源の発見と環境整備 野洲市の魅力の再発見やニーズに沿った観光のあり方の検討を通して、新たな観光資源の掘り起こしを行うとともに、観光客が訪れやすい環境を整備します。	体験型観光のメニューづくり、案内表示の更新・多言語化、観光関係団体への支援
③地域資源の活用促進 市民・団体・農林水産業者・商工業者・観光事業者等と連携し、特産品づくりや定期的なイベントの開催等、地域資源を活用した観光振興を促進します。	ビワイチ [*] 等多様な手段を活用した観光ルートの充実、事業者や市民との協働による特産品づくり、定期的なイベントの開催、湖岸を活用した観光振興

▶ 指標

指標	現状値	目標値(5年後)
観光入込客数	1,550,100人	1,627,500人

▶ 関連する主な市の計画

- 観光振興指針